

ベトナム留学生の紹介

—ベトナムと日本の架け橋となるエンジニアを目指して— 夢は叶えるもの

広島工業大学専門学校 国際交流センター

Viet Nam

グローバル企業が求めている人材

昨今、グローバル規模で競争が激化するなか、アジア新興国に活路を見出そうと進出する日本企業が増えてきています。これらの企業の経営戦略における最重点課題は、その国と日本との架け橋となる優秀なエンジニアの獲得と育成にあります。言葉や文化の相違を理解し、現場のリーダーとなり得る実践的な技術や知識を身に付けた留学生に、今、企業は熱い視線を送っています。

Viet Nam

日本人学生の“内向き志向”は変えられる

一方、日本人学生においても、将来は赴任地が海外というケースも想定されるなかにおいては、如何にして“内向き志向”から脱却し、世界に目を向けさせ、グローバル社会で活躍できるタフな人材を育成することができるかが、本校の課題でもあります。そこで、本校では、平成20年11月にアジア新興国の中でも急成長が見込まれている国の一つであるベトナムに焦点を絞り、ハノイとホーチミン市の現地調査を行いました。

先ず広島から進出している日本企業数社を訪問し、求めている人材像についてヒヤリングを行いました。更に、交流校を求めて、大学や職業訓練校等を視察しました。

その結果、ホーチミン市にあるホンバン国際大学を姉妹校とすることを決定し、翌年の平成21年12月に覚書を取り交わしました。また、同時に2名の機械工学科の学生の研修旅行を実施し、ホンバン国際大学生と交流を深めるプログラムも実行に移すことができました。翌年の12月には、4名の建築学科の女子学生が研修旅行に参加しました。

参加した学生たちは、ベトナムの若い人々のパワーに圧倒されながらも、「海外に出てみることで、日本という国や社会、そして自分自身を見つめなおすことができた。将来、海外で働くことも現実のこととして捉えることができた」と将来への考え方が変化すると述べています。

Viet Nam

ベトナム留学生の受入

ホンバン国際大学との交流プログラムの推進と同時に、ドンズー日本語学校とは留学生の受入について協議を重ねてきました。そして、平成23年4月、校長推薦により機械工学科と電気工学科にそれぞれ1名ずつ、留学生を受け入れることになりました。

入学から半年、彼らはどのような学生生活を送っているのか、また、将来の夢について聞いてみました。



機械工学科 1年
VU QUANG MINH
ヴー カンミン
ナムディン省出身
(ハノイから100キロ東)

出身校：2009年7月
ハノイ工科大学 機械工学科卒業

なぜ、留学先に本校を選んだのですか？

小さいころから機械が大好きでした。高校生のときはバイク雑誌を夢中で見ていました。それで大学は機械工学科を選んだのですが、理論が中心であり、実習時間がほとんどありませんでした。旋盤やボール盤も台数が少なく、1学年で400人もいたので、ほんの少しさわった程度でした。

大学4年生のとき、学業を一時中断し、AOTS(海外技術者研修協会)制度により横浜へ行くことになり、そこで、日本語を6週間習いました。その後、埼玉の会社で10ヶ月間にわたりプレス機械の研修を受けました。

このような経験をするなか、日本は世界で一番技術が進んでいると思い、留学を決意しました。日本語は独学で3ヶ月くらい勉強しただけだったので、ドンズー日本語学校に入り1年間猛勉強し、N2を取得することができました。その日本語学校の校長先生に、広島工業大学専門学校への進学を勧められました。実習が多く資格も取れるので、とても良いと思いました。

具体的にどのような勉強をしていますか？

入学してから取り組んできた技能検定3級試験に合格することができ、3級機械加工技能士となることができました。これからも、マシニングセン

ターやフライス盤の操作技術を学ぶと共に、CADトレース技能審査や危険物取扱者乙4類等の資格取得にも力を入れていきたいです。

インターシップはどうでしたか？

広島アルミニウム工業(株)の長束工場と千代田工場、車のエンジンカバーの金型と鑄造を学ぶことができました。日本の企業を知る上でもとても勉強になりましたし、社員の人たちとも仲良くなることができました。

広島の暮らしはどうですか？

来た当初はホームシックになりましたが、だんだん慣れてきました。クラスに友達もでき、今は楽しく過ごしています。

ハノイのお勧めスポットを教えてください。

ハロン湾やチュフタイというお寺には、日本人観光客も多くて、お勧めの観光スポットですが、私は、秋の静かなハノイの街を散歩するのが大好きです。

将来の夢を教えてください。

ベトナムに進出している日本の企業に就職し、技術をもっと磨きたいです。そして、将来は、バイクと車の修理工場を作りたいです。お客様の好きなパーツを組み込んであげて、世界に一つしかないオリジナルな製品を作りたいです。



電気工学科 1年
TRAN THANH NHAN
チャン タン ニヤン
ベンチェ出身
(ホーチミン市からバスで1時間半)

出身校：2009年6月
ホーチミン市工科大学 電子電気学科卒業

なぜ、留学先に本校を選んだのですか？

ホーチミン市工科大学を卒業し、携帯電話の修理会社に勤めていましたが、修理をするだけでは自分の将来に繋がらないと思うようになりました。そこで、技術力が高く、教育水準も高い日本へ留学することを決意しました。また、同じアジアの国ということで、ベトナムと文化も似たところがあるので生活し易いのではないかと思います。そして、ドンズー日本語学校で1年勉強した後、広島YMCA日本語学校で1年半勉強しN2を取得しました。

大学では、理論が中心で、十分に実習ができなかったため、専門学校で技術を身に付け、日本企業で評価される資格を取得したいと思い入学を決めました。

具体的にどのような勉強をしていますか？

第2種電気工事士の資格を取得することができました。今は、第1種電気工事士の合格に向けて勉強しています。その後、インターシップへ行く準備に取り掛かる予定です。早く日本企業の研究をして、将来の方向を決めていきたいと考えています。

広島の暮らしはどうですか？

小さいころから親元を離れて暮

らしてきたので、特にホームシックになりませんでした。日本語には慣れてきましたが、広島弁は難しいです。食べ物では納豆がダメです。ホーチミンのお勧めスポットを教えてください。

ホーチミン市工科大学の裏には学生に人気がある喫茶店がたくさんあります。また、近くにある公園を散歩するのもお勧めです。

将来の夢を教えてください。

ベトナムでは、電気の配線や管理については明確なルールが確立されておらず、混乱している状況です。将来は電気関係の会社を作りたいと思っていますが、それには技術だけでなく経営についても学ばないといけないと思うようになりました。これからインターンシップなどを通して方向性を定め、先ず、ベトナムに進出している日本の企業に就職したいと思っています。そして、技術と経営の勉強をし、経験を積んで自分の夢を実現させたいと思っています。



外国人を対象にした日本語能力検定試験